

## 相模線複線化の早期実現に関する要望書

平素から、相模線の整備や地域の発展に対しまして格別の御高配を賜り、心から感謝申し上げます。

相模線は、東海道本線や横浜線など東京や横浜方面に向かう5つの路線と接続し、神奈川県中央部を南北に縦断する都市圏の公共交通として、重要な役割を担っている路線です。

しかしながら、単線のため、運行本数が少なく、表定速度が低いなど、周辺の鉄道と比較して十分なサービスが確保されておらず、また、駅舎等につきましても整備が遅れており、利用者からはこれらの改善が強く望まれていることから、本同盟会の構成員である神奈川県や沿線の市町・経済団体では、貴社に御協力を頂きながら、駅行違い施設整備の検討や、駅及び周辺の交通改善など複線化に向けた施策に、積極的に取り組んでまいりました。

また、神奈川県においては、東海道新幹線新駅とリニア中央新幹線神奈川県駅の設置により、全国との交流連携の窓口となる二つのゲートを形成するとともに、これらをつなぐ南北方向の交通軸の一つとして相模線の複線化を促進することとしております。

こうした中、橋本駅付近に神奈川県駅が設置されるリニア中央新幹線につきましては、平成26年10月に工事実施計画が認可されるなど、開業に向けた取組が進められるとともに、これに伴い、倉見駅付近への東海道新幹線新駅設置の可能性も高まっており、二つのゲートをつなぐ相模線の複線化に対する期待はますます大きくなっております。

さらに、首都圏中央連絡自動車道の一部であるさがみ縦貫道路の全線開通や海老名駅西口土地区画整理事業等のまちづくりにより、相模線沿線の土地利用の促進や企業の集積などが進んでおります。

本年4月の交通政策審議会答申第198号におきましては、新幹線駅へのアクセス改善などの観点から、相模線の輸送サービス改善について言及されるとともに、相模線に関連し、相鉄いずみ野線延伸や小田急多摩線延伸、橋本駅の乗換利便性向上が、東京圏の都市鉄道が目指すべき姿を実現する上で意義あるプロジェクトとして位置付けられております。

本同盟会としましては、こうした相模線を取り巻く環境の変化を踏まえ、複線化の早期実現に向け、平成25年度に策定した「新たな相模線交通改善プログラム」に基づき、各自治体のまちづくりによる人口集積を始め、駅施設の利便性向上や地域の魅力創出等の需要喚起の施策に、より一層、積極的に取り組んでまいります。

こうした中、相模線や沿線地域の活性化に向け、本年3月に設立した相模線沿線活性化協議会への貴社の参画については、大変心強く思っているところですが、リニア中央新幹線の開業に向けた取組が着実に進展する中、相模線の輸送力増強は喫緊の課題でありますので、沿線住民の切なる願いである相模線の複線化につきましても、早期実現に向けた取組を推進されますよう要望いたします。

平成28年10月7日

相模線複線化等促進期成同盟会  
会長 相模原市長 加山 俊夫